実践例　　中学校第３学年　総合的な学習の時間「自分の問題としての同和問題」

１．指導にあたって

① 題材について

生徒たちは普段の生活の中から，様々な活動に協力していこうという気持ちをもっている。例えば，時間にかかわる取組では，リーダーの呼びかけに応えてそれをやり遂げていこうという気持ちで生活している。また，できるようになったことを継続できるように，直すべき点を指摘したり，さらに働き掛けを工夫したりして，よりよい学級での生活を生み出したいという願いをもっている。しかし，自分自身の弱い部分に目を向ける力が弱く，表面的な解決にとどまっている。自分の役割など，直接かかわる部分では，積極的に仲間にかかわっているが，他の部分での自分勝手な行動は改善されていないこと，傍観的な自分ではいけないと振り返りながらも本気でそれを改善していこうとしていない姿がある。

本題材では同和問題を自分自身の問題として考えさせることを通して，仲間と本音で意見が交流できる学級集団をめざすことをねらいとしている。そのために，最初の資料『愛は満たされた，されど…』では，登場人物の心情を考え交流することで，部落差別の問題への憤りを十分にもたせたい。その上で，次の資料『明子の愛，そして…』で，「自分がその立場だったら…」と考えさせる。仲間と同和問題について真剣な思いを本音で語り合うことで，自分の考えを深めたり改めたりして，同和問題への関心を高めると共に，自分自身の内面にある弱さや醜さに気付き，より良い生き方を求めようとする意欲をもつことにつながると考える。その克服を目指し，自分自身の差別心に立ち向かわせることで，差別やいじめのない豊かな人間関係を築くことができると考える。また，傍観的な自分から，積極的に仲間に貢献できる自分づくりが，学級の活動をより充実させることにつながると考える。

② 留意点

同和問題の学習の指導にあたっては、社会科の歴史学習を振り返らせることと、同和問題を扱ったビデオ資料「にんげんの詩」を見せることを導入にすると効果的である。現実の社会にある差別についての理解を深め，人間性無視の差別に怒りや憤りを抱き，差別する人の醜さ，卑しさを感じ，そんな人間になりたくないという思いを抱かせる。しかし，現実の同和問題にあまり触れていない生徒たちは，あくまで資料の中での話であり，現実問題として自分自身の課題とならず，部落差別は間違っている，許してはいけないと建前的に理解する段階にとどまることが予想される。

そこで本主題では，「愛は満たされた，されど…」の読み物資料を通して，登場人物の心情やその行動を考える。主人公・由紀子の両親のような身勝手な考えが，いかに同和地区出身者を不当に差別しているのかということを理解させ，もう一度差別への怒りや憤りを感じさせる。そして，現実にまだ残っている問題であり，これからの自分たちが解決しなくてはならない問題であることをとらえさせたい。その上で，「もし，自分が、結婚を決意した相手が同和地区出身者という立場だったら，あなたはどうするか。」という課題を投げかけ，自己に問いかけさせることにより，同和問題を遠い問題ではなく，自分にかかわる身近な問題であることをより深く認識させたい。そして，実際に同和問題に直面した時，様々なこだわりから差別に立ち向かうことができない弱さをもった自分自身であること，また，登場人物の身勝手な行動に対して散々批判していたが，自分も同じ差別をしてしまう弱い人間だったことに気付かせたい。そのために，自己の内面を見つめた時，弱さにつながる次のような意識をもっていることを明確にしたい。

・自分自身にかかわること以外には無関心であったり，「自分さえよければいい」といったりする意識
・偏見に基づき，人を決めつけた目で見たり，阻害したりする意識
・優越感，劣等感，違和感に基づき，人を見下したり，排他的に見たりする意識
・世間体だけに左右され，間違ったことへの追従，傍観につながる意識

そして，こんなこだわりや，部落差別への継承につながる意識をもっている自分自身の弱さや差別心を仲間の前で素直に出して，仲間と語り合うことを通して，仲間の気持ちに共感し自分自身の生き方を考えさせたい。それが，同和問題をより深く受け止め，自分自身の課題として受け止めることにつながると考える。

③主題にかかわる育てたい力について

（１）「にんげんの詩」の視聴や学習を通して，部落差別の発祥の歴史的事実を知り，部落差別は「いわれなき差別」であると理解する力。（認識力）

（２）いろいろと理由をあげる中で，実は自分の意識の中に差別してしまう弱さや醜さがあることが分かり，それを変えていきたいという考える力。（自己啓発力）

（３）同和問題が自然に解決されるのを待つという消極的な考え方ではなく，ともに差別をなくしていくために，さらに積極的に学習していこうとする力。（行動力）

④指導計画

学習の流れ	ねらい	資料
第１時 「同和問題の歴史的背景の認識」	同和問題の起因と過去の差別の実態を知り，部落差別は作られた差別であり，不合理な差別であることを正しく理解することができる。	・同和問題学習プリント ・ビデオ「にんげんの詩」
第２時 「部落差別の事実について」	同和問題の学習の意義と必要性を再認識し，結婚問題に対する自分の思いをまとめる。	・「愛は満たされた，されど…」
第３時 部落差別への憤り① 「由起子の父親・母親について」	「娘の結婚相手が同和地区出身者である」というだけで結婚に反対する親の間違った考えを明らかにし，部落差別への憤りをもたせる。	・前時の感想
第４時【本時】 部落差別への憤り② 「由起子の生き方について」	周りの差別に負けずに頑張り続けた由起子の生き方や素晴らしさに共感し，不合理な差別を認めたくないという気持ちを高める。	・前時の感想
第５時，６時 「主人公と自分」	「明子の愛，そして…」を見て，部落差別が現実の問題であることを実感し，真剣に自分の問題として考えていこうとする態度を養う。	・ビデオ「明子の愛，そして…」 ・感想メモ
第７時 より良い生き方への意欲①	人間には弱さと醜さがあることに気付き，より良い生き方をしたいという心情をもつ。	・ビデオの概略「明子の愛，そして…」 ・アンケート
第８時 より良い生き方への意欲②	自分の中にある弱さや醜さがあることに気付き，より良い生き方をしたいという意欲を育てる。	・前時アンケート，メモ

２．本時のねらい

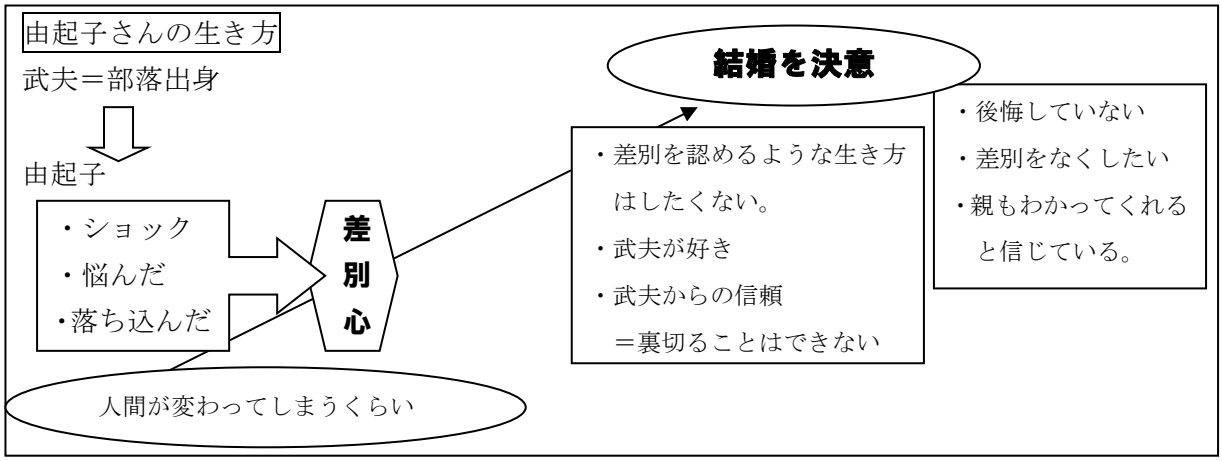
周囲の反対や自分自身の差別心を乗り越えた由起子の生き方や素晴らしさに共感し、不合理な差別を認めたくないという気持ちを高める。

時間	学級活動	留意点
３分	**１　前時の振り返りをする。** ・娘の幸せより世間体ばかり気にしているのがおかしい。 ・部落の人間が嫌だと遠回しに言っているのが嫌だ。 ・目に入れても痛くない娘が結婚するのに、部落出身者というだけで反対するのは許せないし疑問だ。 ・２人が差別に立ち向かっているのだから、もっとわかってあげるべきだ。	・登場人物相関図や両親に対する生徒の言葉を提示する。 ・発表者は聞き手を意識して話すように指導する。
10 分	**２　武夫が部落出身であることを知ったときの由起子の気持ちを考える。** 資料１５行目～３９行目を範読する。 〇武夫が部落出身であることを知ったときの由起子はどんな気持ちになったか。 ・人間が変わってしまうぐらい落ち込んだ。 ・交際を続けるべきか別れるべきか悩んだ。 ・親の反対にどう対処すればいいのだろう。 ・武夫が部落出身と知って、ショックを受けた自分には差別する心がある。	・「由起子の気持ちが分かるところに線を引きながら聞こう」と指示する。 ・人間が変わってしまうくらい落ち込んだのはなぜかを問い返し、由起子自身にも差別心があることを押さえる。 ・①、②のような思いを押さえたい。
25 分	**３　結婚を決意した由起子の気持ちを考える。** ◎悩んでいたのに結婚を決意したのはなぜだと思うか。 ・結婚しないことは差別を肯定したことになり、そのような生き方はしたくなかったから。 ・武夫を死ぬほど好きだったから。 ・武夫が自分を信じて、部落出身であることを打ち明けてくれたので、その信頼に応えたいと思ったから。	①差別を認める生き方はしたくない。 ②自分を信じてくれた人の思いに応えたい。 ※補助発問「もし結婚しなかったら」「なぜ武夫は部落出身者であることを打ち明けたのか」
５分	**４　家を出て武夫と結婚した後の由起子の気持ちを考える。** １０４行目～最後までを範読する。 〇結婚後の由起子はどんな気持ちでいたか。 ・武夫と結婚して本当に良かった。 ・差別で苦しむ人がいなくなる世の中になってほしい。 ・いつかは親も分かってくれると信じている。 ・早く差別をなくさないといけない。	・一番大切な親だから、「差別をする親になってほしくない。いつかは分かってくれる。」と信じている由起子の気持ちを押さえる。
７分	**５　由起子の生き方について自分の思いを書く。** ・差別に耐えるのではなく、差別を無くしていこうとする生き方はたくましいと思った。 ・差別をなくしていくには、武夫と由起子のように、お互いを信頼しあうことが大切だ。 ・父はいつか必ずわかってくれるという願いをもっているところが素晴らしいと思った。	・由起子の気持ちを語りながら、自分の考えを語らせたい。

４．考察

部落出身の武夫と結婚しようと決心する由起子の生き方に対し，「すごい」「強い人だ」と感じる生徒が多かった。自分の意志を貫き結婚した由起子だが，武夫が部落出身だと知った時，「人間が変わってしまうぐらい落ち込んだ」という表現がある。由起子にも差別心があったことを確認することで，結婚するという決断が簡単なものではなかったことが分かる。由起子が差別心や親の反対に打ち勝つことができた理由を，「武夫への愛」という言葉だけでなく，武夫から向けられる信頼，自分自身の生き方，親との関わりなど，さまざまに絡み合う要因に目を向けて考えることができた。「２人の問題なので親が反対していても関係ない」という考え方もあったので，由起子の「親も大切にしたい」という思いについても考えられると良かった。

板書記録



授業後の生徒の感想メモより

由起子さんは正しい生き方をしたと思います。もし，差別に負けて武夫さんと別れていたら一生後悔し続けたと思うし，武夫さんが部落出身だということを由起子さんの両親に黙って結婚したとしても，罪悪感のようなわだかまりが由起子さんの心に残っただろうと思うからです。由起子さんの中にも部落に対する差別があったと思います。しかし，「あなた次第や」というところで，差別意識よりも武夫さんに対する愛情が勝ったんじゃないかなと思います。差別を乗り越えて結婚できて本当に幸せだったと思います。お父さんには差別を乗り越えてほしいと思っているだろうし，自分の子どもの時にはこんなふうに差別で苦しむ世の中であってほしくないと思っていると思います。
武夫さんが部落の人だと知ったときにショックを受けたということは，由起子さんが部落の人を差別しているということだと思う。しかし，それはやっぱり昔から親や周りから差別をすることを教えられたり，見てきたりしたことで，自分も関わらないのが普通になってしまったのは少ししょうがない気がした。でも，由起子さんの強いところは，どんなに父にやめろと言われても，自分の気持ちに向きあって，自分で自分の将来を決めたことがすごいと思う。私だったら親の言うとおりにして一生後悔してしまう気がした。由起子さんは後悔していないけれど，由起子さんのお父さんも差別をすることが普通だと育てられてきたので，武夫さんを嫌う気持ちもわかるけれど，今までずっと可愛がってきた自分の子のことをもっとちゃんと思ってあげてほしいと感じた。そうすればお父さんも後悔せずに生きられると思う。